花のよすがら雪おろす

六

はくとも不　作物所
細流云金沼細工乃不
ある〳〵一　松茸云作物
所在進物所西有別
當頭熟食・時ゝ
以別尚ゝ補せれ
ばのすし・勘物お注
勘人ゝ
細工人乃ゝ〳〵時柄絞
やうあゝて作せ
これがまにつゝ
女ゝ足若きゝ
まに・細工世ば吳服
ゝ時柄ゝ
をわくとて
土手ゝ
中國乃陸乃
ゝ三条院の春
叔景舎よりかくせる

そもゝ時ゝ
はくとも不　作物所乃別尚すれ
やゝとゝ
やゝとゝて
ゝこれ
やうゝ仕
ゝとかき
ゝ乃世よ
ゝず
ゝの
ゝ
やきを足
ほゝの
これ
ゝに
なるべ
ゝれて
ゝと
ゝて
時柄大ゝ股立
ゝ
ゝれゝ別
ゝや春宮
ゝまゝ
ゝ
ゝ

栄花物語巻第十六

乃まきにかけて接殿
をば帝ちくらびさせた
ぬれば関白殿とゆるし
す中納言十四人ばか
よあるべきなかえよ
まうせなのふあるさま
花ぐもめでたう
まうせるいぬれば宣耀
殿はまうでさせたまひぬ淑景
舎女御まうでさせたまひぬ
もやうやうなれば
むらくもめでたく
そ正暦三年のくれ
どうなりてん　おなじ乃
陳参ふた財名
はれまうしひのはなちり
和名云登花殿ハ弘
徽殿乃ふくあり
殿うへひとの車
殿も中関白ふ陸公

清子ぬ
あといあきを二月十日うへ
わらはまへきれせうこあれば
まもれまいらひまうよみぎきて
ろひ女房あるも皆よういまうち
ぞわらはまいせまうしのばくこと
あるてあけぬごとくてでん乃ひんぐ
乃二間うち清涼殿ひいまうち清
ていとくまうしまいりわてて曦
殿うへひとの車ゆてまいりまひり
乃ち文ハ清げじ乃南ゆ四尺乃屏
風あるうへぶあるうて

せうへハ中関白殿ハ方
ゆ南院貴子と申す儀
同三司母とつまもしたま
淑景舎ものはれ
まういうでう
あり作りどいそぐ
作りんもの
まうくぜんにくや
積善寺供養
法四尺ゆて
くて接殿の
乃ちふ別ゆ典侍
させたて積善寺と名
付させたまはせ堂供養
いくぶつ
正暦三年のくれ中関白の
父兼家ゆれまふ建
こうぐいのくまんうま
和梅ハ表紅裏紫二月の
衣ぬ唐文浮文ぬ明
曹枝もあり或説ゆ
固文ハ綾の織外

清子ぬ
まうくぜんにくや
ぜんぐくや乃月清
きこゆれぐまもらとびやうぶとれも
たいよりて我うちぬよりうつく
しきぬぐのうあるすれぬれまくゆ
まうさまわていいしまうぐうえい
乃ちまんうきまん乃清ぐまもう
おのうちまうる清ぐまうへ

紋色濃又ハ唐綾のごとくさうそう

今ハお梅ハきぬ

紅梅ハ十月より二月を

三月の色とも所

くれぬるとてくれぬ

んとこそ二月十日の比

なれども

こしきぶのあつくなれハ

お梅ハ所りなく萠黄

ぶくろ丸ゐくなれハお梅

をもてとかくもてはや

されどお梅ハ紅よ重く

似合ずこそ　お梅ハ白き

きぬをうちかけなど

れ首尾こそきぬハ濃

紅しハ紅とハいとをきを

なれども

さてのちうぐいす

ぶくろのすハたちぶくろ

車ようて丸ゐ出るも

かくれくちもとくちもとよごとうでいとハこき

濃紅のきぬ　紅梅のきぬ　ハいこきぬ

ぬへ　ハ

うハあるぬあるとのるてすれど

ぶくろ丸ゐくなれハ

やてれるうちの少ありひあいせのつぶ

異し他の人もやうくくちをうてやうくく

くるきひくもくやうくまるんとぶ

ゆしきさてぬうちいてハ世のひぬれハ

やてれびやうぶのうちいまきてのぶく

をハ

ぶ人ごとしてうつ花やうじ乃ひろ

あきくれハくくく

こまかくうつむきて
今はかぎりのぐく方
うもきく関白殿の
おわたし
ゆでこきたあり
もとうえたく
左大臣叔景舎もこの形
を関白殿うらびえ
まさ
たびりやうのふきく
るやう小
うらうく物ぬし
きさき氏子等
蓬上のあり
そうりきこと物氏姫
そうりきこと物氏姫
まれやうもそ同
しぬうえし
せんうでんぢやうぐ殿
元叔景舎より登花
殿へゆくうづきうう
豈殿和名云麗景殿

乃小夜殿 貞観殿
和名云常寧殿乃小
あり これを西殿と
つくる叔景舎ハ昭陽舎
乃小麗景殿乃うら
まあれば西宣耀殿
云西貞観殿とを
ひて こうの梨花殿
ものべ 今の世ハ
らひ梨花殿乃ほの二
同とあり 拾遺抄宮
城乃曷順 和名云
勤へ

おきぬ 和名云背子
形如半臂無腰襖之裕
衣也 楊子漢語抄云背
子婦人表衣 錦為之
小野の三位 菅原輔正
勤解白長官在朝一男
現神北野殿是也正暦

乃こまかくれらうあぐ女房装
束長絹よりはなやかなる女房つくられ
ぬ人びとりたつふせだりてかくれ給へる
きくみふうとうとう 探乃かぐこと
ぎこうでいあぐいみぐくかざみあぐ
たりひきくどりはぎまつをいと
あるめりしどりあのかくきぬどもこれ
出くすけまきの乃むれこの乃むと色
が将乃きこ小野乃三位のしとめ宰相
乃きこあぐらくはるはるおう
とこるりぐこれ侍りこれ侍てうつ
春 乃うねめあをすくぐれをかきぬ
裾帯 青朱濃裳背子
うんさいひきぐくどりてすぐいと

三年二月十五日叙三位公卿神任大系圖なる
ことの事乃うねめ
百寮訓要抄云采女と
中小臣とより下級女官
をえらびて天子へよら
するし陪膳をも
ゆるせり女官とも
ほのあ乃役をも
とむるなるべし
みうちあげまうして
河海云昔は女官は衣
以下常に髪を上る
事義也也延軒云内の
女房は髪乃所は髪上
して叙うぐいす髪
とりてきへ上るしと
后宮乃ほうげと義
人家ど役とる事

けうし申し下仕のもの
とうて下ばくるとうほぎて
まつるわどこれをあるやけきふか
きしめいくれぬ
みぐうあげまりて
乃めなげくまいするかぶへき
ほのかの屏風をあけつれど
ほのかの乃人これみのそれる
かいまみ乃人
ちくいたくずわびしくれば
ちやうとの中にて
及なるきぬのすう
みあそみあそふを出されれば
内侍乃ものうきをとりひろ
乃めてちらんしいる

ほのかの乃ふ乃ゆるを
のまとこ古今やまと
乃乃ちかの乃ゆ
乃てて人こそ
れ消ぬるを見ひて
れ乃ふきとくを
を得意也清少納言
ちの得意をそ
まひしー物をあの
ちやうくくの
中ぐ奥自殿小の方
の伝膳なまうぐ
ちうぐうをこま
雅樂言也狂言乃乳
ちくをのまと
大納言殿 伊周公也正暦
三年ま乃乃牡の中
納言まこと大納言ま
乃ま乃と業平也清原在
三位中将 陸奥也業平
也清原也業平乃
乃すの乃ハ三位中将ま

内侍乃ものうきをとりひろ
ちくいたくずわびしくれば
ちやうとの中にて
及なるきぬのすう
みあそみあそふを出されれば

[illegible]
正暦三年のころ
[illegible] 伊周の北男左京
大夫道雅の童名也
[illegible]
彼大納言殺重光乃姫
[illegible]
[illegible]
小の方貴子 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
伊周隆家卿孫也 居
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
東宮[illegible]
三条院[illegible]
[illegible]

[illegible]
伊周隆家卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宮乃院ゝ
とくゐの
ゝ
ゝ
ゝ

私記云御髪御髮事
侍臣之間撰堪事之人
供無定例皆着當色
袍謂之御袿今案此
云云
人公等のきぬの裏を
[illegible]
[illegible]
内義以　そし道隆公の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月はこれも
そも正暦三年の比なの
ほとゝぎすはけりや

かくてはつかまりぬるに
かくのごとくの日中
ありしかばとかもし
公任の君宰相中將殿の
公任と宰相中將殿とあ
人のもとにまいりたまへり。
公任は師の相國頼忠公
乃男和漢の才人し
宰相中將は和歌にすぐ
すぐれたまふる。
陰茂てまゐる兄なりき
詩を立て後撰に
ますまさりたまふ
和漢ともに
誰ともとへいたれ
連名のせ一座乃
人々を誘ひかけ
とこたへたまふ

中のそうなりよりてよりて作らる
二月はごろ風いとはきて
くろきさに雪すこしうちちるまでるれど
黒戸にはりとのもばきさきてかうして
みてとへいたりとのもばきさきてかうして
相中將どもとあるを見れば
すこしまあるこちらうれ
とあるはかぶかぶ
けひとしてこれ
とひわつひぬ誰
とうひわつひぬ
とうはりぬ。
宰相中將
ひとをどいらぐことあり
ひとをどいらぐことあり

おかしのことゝうう
帝乃淑景中宮乃
の侍寝なりし
ぬぎれとして
ひとひ
ひとひ
ひとひ

忠貞は去来作るや

中將まさかいせーらめるりまひー

そるうあるは

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

中將まさかいせーらめるりまひー

そるうあるは

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

ふ月乃さうし

陸奥獄物語ぐるや

そんひろをひれりは

和名抄半臂　衣名

桃安業集ニ或ハ小袖結

近代中臂以小袖結

之往古之例大袖二

節結之今世ハ女人

花者人今業集中臂

いりもありぞハ綾文

ハ生乃穀を見ゆ紋ハ

うと物をしてみく付とゆり。但世ハ紙ゆりいるハ往古乃大袖二筋をとり

結之ゆりいるはのるまくしそをひれふ違るは行るゆ今世ハ人まれ

ありとくてるく

十二年のゆこりり

反撥の物ハ中ゆを

すさひろ　源方弘

ハ生乃時明男ハ

人乃ぬ八ゑ
るをも
ちこに笑
かゝこに
せこきこ
て
嚴方
彼
墨乃
と

女院 あやまち 元東三条院也一条院の御母 おきさき

院つ
宮乃
乃
きり
乃
と

やこ
まで
ぬ
や
す
ぬ
人
あ
ぬ
人
ぬ
人
ぬ

人まよ
人乃
乃

ひろこめよ 艇篭 食物ケをこう之ちゝ之のゝ

ちゝ
陳月
おこ
とこ
炷基
油単
はこ
油単小方ハ
つけ
輦 和名ハ大文頭足衣 桃子葉兼美 輦練奥

わ
人
きこ
人
よ
ま
い
て
ら
て
の
は
か
て
は

又あやまち事ハこゝハあり
わが君こゝ
人乃のる事ゝ
ちやうの
ちこ
れハむこ
ごめ小
ひつ
乃中乃
ごへのうち
油単
きゆ
られ
ゆ
ゆ
ゆ

乃小袖をぞとる時
練貫を用ゆ若さ
白き平絹乃おりかた

頭つきのかわり
荒人頭ハ賢育して敵
上の髮領されの長盤
まつきて食とる時も
の時ぐさふハ敵上人ハ
をつるゆを方ハ乃わ
先ゝり豆をとひとと

あふたれせき　近江
巫蠱王　武内宿禰と戦
かけて退しよ武内者
祈追てこ山てり多
姫よ巫蠱王を亡しる故
逢坂と云と日本紀九に
逢坂の関　細流云奥
別乃蝦夷新関俗ゝ
くきくのせきとふ
くくくのせきとふ

まくとり乃こうたんとうたてり　震動
頭はきさのくぬかぐ。敵上乃大ん
ゝり人ともはずそれなまさひろハさめ　小障あ
一風
ひとゝわをとりくこはしじ乃ゝ乃
まゝやをゝひそれぶひきなゝ　方ハを引切て
てわゝくくゝるゝかきりあきや

せきとも

あふたれせき　すあの関　はの関　伊勢
奥別
くきでの関　ゝ川乃せき　衣乃関
八千奥別
八千陸奥
ゝ乃せきハくゝ乃せきとと
ゝこゝ乃せきハくゝ乃せとと
ゝくくくかわれ　八千陸奥　とくげ乃せ関
八千陸奥
きゝくゝゝ乃せき　乃るめの関　ゝ乃

陸奥の国の関の一名しきこゝ
せきこゝくゝ　ゝくゝ　ゝ　ゝ　

神おひの　神南備森
[illegible]

あひの森　うねの森　うぐいすの
[illegible]　本社の森　いそ山の森　かう
その森とつたへてあるこうなや
しれ。[illegible]
ひとまはるをぱうつけるうとひの
[illegible]
こそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
車をかきすくいに[illegible]
[illegible]
いとあ[illegible]
[illegible]

[illegible]
文選廿二謝靈運　蘋
萍泛沉深　菰蒲[illegible]
清　金葉集[illegible]
[illegible]
[illegible]

あづまぢ　イ本ニ山ヒロ
さうぶとりふめどもと　菖蒲
桐壺ニ云　楊貴妃の形代ニ
師とのぐ　ものいと白ひ　侍る
みきとはるばる　大將の
あきさまうする　松
ちりとしみたる　ちりも
松の木　そよ　庶
みちはいつ　そ以下ハ
韓退之詩云　肌膚生鱗甲　衣被塵埃
炉不覺煖　鼎炭暴已添
あをあしの　梁元帝詩云　季夏煩暑　流金爍石
土さ　さけ　てもも　我独ひめやもうあらじてと　拾遺
孝ある人の子　尒雅釋詰
曰善事父母為孝　孝曰
竟孝子之道　孝第而已

ちよ　ふきさ　さを　ふる　松
あづ　と　ひて　山吹　松
めづ　ふる　ひと　女
松乃木　松乃野　山ぶし　山ぶし　鶴　鹿
みち　ひき　ふ　母　ふ　里
孝ある人乃み　鹿乃ね　よき男　わり

孝經ニ云子曰夫孝德之本
也教之所由生ト男
行あけ　いひ
へぶ　ぬ　ぬ　ぬ　額
突　獄　進　別　勒
金剛藏王ハ　釋迦
現在觀音　南來　勒
ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ

やつれて[illegible]
[illegible]
[illegible]
と 金葉の山の[illegible]
[illegible]
[illegible]
あをやまぶきの
桃華葉集衣色更詠
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十六七月　そつのあかりひゆるおのそそ

年うちすてゝ
年をこそ
朗部　青火一炉灯
一盞　白頭花礼佛名
経ゝ

とけふはあるねぶれ
一統そも苔ゝる家の
蓮華あどせる東
ゆくゝ
寺ゝこゝり　三井寺
ゝやゝゝ

をかもさそげあるが服衣ゝきゝる
二十六七月　そつのあかりひゆるおのそそ
てゆあるゝゝ足れぶあるゝあきゝにいがが
そげある月乃山のそちゝゝゝゝる
こゝとあられあれ　秋の野　年うち
すゝゝる　絡ゝちゝをあひきる
あれゝる家よむゝゝそひゝゝよゝぎ
あどゝゝゝ　ゝあひゝる庭ゝ月乃ゝのか
くあるき。いとけゝゝいあゝねぬの吹ゝる
月ゝ　例乃年　寺よこゝちゝゝるいゝゝゝゝ
雪ゝちゝゝ　ゝおゝるゝゝゝゝゝれ。あどゝ
乃ゝゝぬゝきゝゝゝきあゝいとゝわゝ

ゝれゝゝ　棟階ゝゝや
初秋ゝゝある絵
うゝゝ絵ゝゝ楼ゝ
のゝゝゝゝゝゝぎゝゝの
ゝれゝゝゝゝゝゝの本を
よゝゝゝゝはゝゝ。
下ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

二分別根品七十四頌。三分別世界品九十九頌。四分別業品一百三十一頌。五分別隨眠品六十九頌。六分別聖賢品八十三頌。七分別智品六十一頌。八分別定品三十九頌。已上六百頌為論之本也

ようの毒のくさりひきぬくもの
きぬくるまひきぬ
あるとき
賞
はかまきぬ
ぶどうそ
ぶきくるまたりふるまひ
深履
襪
半鞾
袈裟
半鞾
袈裟
半鞾
袈裟
廊
らうろうのぶどうのまひ
摩靴
白絹
袈裟
皆同
ぶどうのまひ
ぶきてらうろうのぶどうのまひ
ぶきてらうろうのぶどうのまひ
ぶきてらうろうの

みそうの法師
みゆきとて
一一きあらんこころ
ゑ月ゆきかもしる灯と
あれハイきをもえぬ
ちびうちけく
かけはびのさま
なやの
ゑすぐしのやつせる
紫染ゑ

法師の乃ちきく
法ゆの者伝の法師
高きもしし
ゑ乃人
ゑ乃人
法の法師我
ことゆ
ゑ乃人

これをとあ
ねよ
壺乃
法心ざ
きこゆ
校を
きゐ
法師
ゑ乃人
いぬ

ちゐ
ゑ
ゑ
ゑ

経をも言うず後
先西をくはなぐ
させまわりきと
けさやか あざやか
うかへあるも
月はさとりさよ
おもも日はさとり
まてうべし
さやかはさて
おとハくもうハ蓋
和さはぐ
ーとあるし
りひをいとさと
昔ハ十二時より見を
吟じ載集より
今ハ亦午刻見う
吹つれひでの
し近付ぬし 赤潮
すきやれ 誦経
の布施 布施
りはきり

巣くひつのごとけさやうよきて
おてハあですこ西びくかし
ぬてはうをはのふんくれをかる
成就させ
へだやどこうれがゆれ日はくとわ
くるひるハとこのめぐそ
やうハるて法師の分 早
わてきべあでゆきてはれくある
うでかこうるひをいとこう
く俄よみき出ることこうをどう
るれさけあるそうすぐ指せ
る男のすぎやうの指うち垂
てぐう童るあどよぶこうの山ひぎ

きくせきせまくて
これうのあ久ぐせ
うくくとてきうき
堂童子ハ法会れ内
祝儀をこうひなき
めぐすあ汚染
う佛ぐこふ乃こ
ま禁中のはうよう
座ひ中圓形よう
市さんこふ
法座乃行待ぐ
まる平小さ
教化ぐ
法花をのて式備験
むうるき由を
教化きするや
屏風ぐのてき
彼通夜のくれ屋を
かこうんあうを

あひくきくきこゆ
ひぎさ
どふやん
市さん
すろよ
ぜこ
めり
地のこ
れ月
月乃
あめり
あ
ひ
教化
法座のうんとおぐうあ
これハであるあり乃ますあ
浜いとあさぐ
すこ人乃ひまあくまづ
れくよをこあひも去やんれど
通夜のくうんぐ
にあうつるハこと人
法上くりまくべくと
屏風あどのくきくとよう

いとくちんさい
進退也屏風のうら
あるをとりくしそしりつ
くひくるまを

ちんさい・てみのごわりごとそいて
こしんれだ・ごはぶわり出く・大ゆせ
おくよ・すれをけぶくとくるまを
ぞいらく・ちはけくるはやすげあと

牡ふくとあまくく
こしハ茶ふらくんの今
ゆくさまを

牡よくくとあまくおくて・たくるち
くるくんハ乃ハやーくすぎものびやくる
けけくちひめくおくるくんくやけんくの
火用ちあやくーくー火乃牽せいやよあど
りゆをあくとセ乃ハづバくわちあくのくで
乃あいぎやくーばきおぐくりくるあは
けくくくくくひくびくびつけ物ぐいひくる
けくくくひをいとくくーくくりだくわる

あいぎやーばきおぐ
くるくくを
牡ふくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

於夢中見大金鼓
こと有り佛事に天人
の来りて賞せんとて
圖書金鼓をうつの
又唄師音聲を發
せんとてし金鼓を打
事江戸年十三まで
いくたびの八月十五夜
此方うつ人なれども
我こそ人なれ
我こそ人なれ
すぐる例うつぬ所
寺院よりぐす。
常ぬ所に居
ぞせんよ。我一人斗
るうつひ。同心の
女なりのぐ
おりくもさそ
はかのくす男

うつこうちりんぱらりとうんゆる
人おわれどいくそ八月十五夜うちすぎていい
ぬる、こうちをぐ小さうぐくれ。氣
多をうんせすしぬをあどいつもなりから
やうあくるぐすぐ例うぬ
下りぱくみ人乃かぎわきくあるひ
あくこうおがゆれ。行なるのかどすて。
ひうつ。やりたくき事とあぐいひ
あたせつぐき人かあくずひうわくち
なりもうちうたまりうたなの中
みどぱりうぬとわれどしめられ
あぐべーなくあどさうり

かたうりりり

[illegible] 雨霧ひ
服車をふひ
[illegible]
[illegible]
列子云齊有貧者
常乞於城市乞児云
天下之厚莫過於是

おがさずのぐらう共今時の人ぞ
とりのきくる 人はすくもせ
おしへ人乃をこはわごとうちすぐる
あはうらんーわれさりぬ
わびーげーうえゆる地
六七月乃むかひ乃時ばかりにきて
あげちる車うえ牛ゆくゆる
ぐーゆくるの 車ぬ日ちわむ乃ちゆ
る車 ゆる日ちわむ乃ちせぬ 年
きくるくい 伊と乃むさわるも 見ちさ
ゆと げと女乃ちるとなきざるをわひ
ちい乃きゆ屋のくろうきるぐ

和名加多井

ぜんくちくる お陸
ちるのうくく 佐ちる
くる
ちりかれとち
ありかれてもそのの
やうるをくくれぐ
ちくく
すいちんの高さ 述異記
長七環翠軒云 直径
[illegible]上蘭を中の中さふ
紫氏乃毛氏ちる 今は
佐多くる 性紫ハ褐衣
冠ハ袍ハ褐衣
ちぬ 伊ちをつけ
ちぬ 伊て空ちたこ
の乃けさ
衲袈裟 衲 和名云俗云能不 智度論云五比丘白佛當著何等衣佛言應著衲衣
袈裟 和名 袈裟天竺語也此云無垢衣 又功徳衣 俗云夜伐
ぬのお 出居次将 賭

あるぐ乃ぬれる 乃ちくちる月
ちいちきくるりのうくぜんくちくる人の
ちりくるりをひげ 袍もた袈もひちる
ちりくるいくまわびーうんとくくるわ
けそちれどよ
ぬつぎちくる
ずいぐん乃ちれちわぎぬ のちけさでる
乃お將いくぐくてる人乃ちいちくる
きん乃ちくる 六七月乃ずちくる乃ちざ
月中の時ちとこちる みちぐ比の洞乃ぐ

[illegible]ど。[illegible]月乃最勝講七月の相撲節[illegible]も出居次將[illegible]の
[illegible]乃器時[illegible]出居乃座敷上よりあり。[illegible]圖おこ[illegible]
[illegible]河海云 修法阿闍梨 護摩[illegible]
[illegible]和名云 鍛冶打金鐵為器也。倩云 鍛冶訛也。[illegible]
七月[illegible]八日[illegible]

[illegible]

[illegible]の中[illegible]
[illegible]の中[illegible]
[illegible]乃うち いざとき[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙ぶくろをいだしたるに
男は男にあらぬ
男の子を雑色にしたるに
男の子を雑色にしたるに
男の子を雑色にしたるに